

『Mind Charging』

第 117 回 発行：入試広報室 発行日：令和 2 年 9 月 19 日

ビートたけし(北野 武)の名言



努力するのは宝くじみたいなものだよ。買っても当たるかどうかはわからないけど、買わなきゃ当たらない。

歯に衣着せぬ発言や、バラエティ番組などで見る自由なイメージのビートたけしさんらしい言葉だと思います。最近では映画監督のイメージも強く、多方面で『表現者』として活躍していますが、何の努力もせずに活躍できるはずがありませんし、もしかしたら活躍しているジャンル以外にも挑戦しているものがあるのかもしれませんが。

この言葉に出会った時に『頑張ってきた意味がなかった』と落胆していた人がいたことを思い出しました。頑張ってきたことが実を結ばなかったことや、落胆しているその人を見て『気の毒だな』と思ったのですが、違和感がありました。理由は、望んだ結果が出なかったにしても、だからと言って頑張った意味がなかったということにはならないのではないかと思ったからです。以前このコラムでも紹介した『トーマス・エジソン』は、“私は失敗したことがない。ただ、1万通りの、うまく行かない方法を見つけただけだ。”という名言を残しています。その時は失敗と感ずることも、次回の挑戦に向けた貴重な経験になるはずで、そして何より、目標に向かって努力するという非常に意義のある行動ができたという意味では『良い結果』が出ているということになるのではないのでしょうか。

努力するという『頑張る』ことは非常に労力を使うことで、やはり“成功”しないと精神的なダメージは大きいと思います。しかし、それを怖がって挑戦しないことが自分の人生を充実させるための『一番のリスク』になってしまうのではないのでしょうか。失敗を恐れず、果敢に挑戦を続けてくことで人生を充実させたいものですね。(編集委員：入試広報室 鈴木)

ビートたけし(1947年<昭和22年>1月18日 -)は、日本のお笑いタレント、映画監督。本名及び映画監督としての名義は北野 武(きたの たけし)。東京都足立区島根出身。勲等は旭日小綬章。タモリ、明石家さんまと共に、日本のお笑いBIG3の一角を担う。日本国外では本名の北野武名義での映画監督として知られる。1980年代初頭に起こった漫才ブームで、漫才コンビ・ツービートとして社会風刺を題材としたシニカルな笑いで人気を獲得し、『THE MANZAI』『オレたちひょうきん族』などに出演し番組が大ヒットした。1990年代からはテレビ番組の司会や映画監督業を中心に活動している。

(Wikipedia 参照)